

各 関 係 機 関 御 中



農 研 第 6 2 7 号
令和 7 年 8 月 2 8 日

石川県農林総合研究センター所長
(公 印 省 略)

病害虫発生予察情報について

令和 7 年度病害虫発生予報第 6 号を下記のとおり送付します。

連絡先	石川県農林総合研究センター 中央普及支援センター 病害虫防除室 電 話 076-257-6972 (直通) F A X 076-257-9140 E-mail kisk0301@pref.ishikawa.l
-----	--

病害虫発生予報第 6 号 (予報期間：9月上旬～9月下旬)

予報内容

大 豆

葉焼病の発生は**やや多**と予想される。病原菌は風雨によって飛散するため、防除する。

カメムシ類の発生は**多**と予想される。子実肥大期の防除を徹底する。

ハスモンヨトウの発生は**多**と予想される。若齢幼虫の防除を徹底する。

果 樹

カキ炭疽病の発生は**やや多**と予想される。降雨前後の薬剤防除を徹底する。

果樹カメムシ類の発生は**多**と予想される。山林に近い園では特に被害が多くなる傾向があるので、園内への侵入に十分注意する。

ハダニ類の発生は**多**と予想される。発生源となる下草を刈り取った後に防除を行う。また、抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

野菜・花き

軟腐病の発生は**多**と予想される。傷口や害虫の食害痕から病原菌が侵入するので、害虫防除や強い風雨後の防除を徹底する。

ネギ黒斑病の発生は**やや多**と予想される。予防防除を徹底する。

トマトキバガの発生は**多**と予想される。発生を認めたらすぐに防除を行う。

シロイチモジヨトウ【病害虫発生予察注意報第 4 号（令和 7 年 8 月 2 8 日付）参照】、**アザミウマ類**、**オオタバコガ**、**コナガ**、**コナジラミ類**の発生は**多**と予想される。薬剤抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

ハスモンヨトウの発生は**多**と予想される。若齢幼虫の防除を徹底する。

ネギハモグリバエの発生は**やや多**と予想される。薬剤抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

※ 病虫害防除の実施に当たっては、最新の農薬使用基準を確認し、遵守する。
また、周辺作物への飛散防止を徹底する。

---気 象 予 報---

1 か月予報 （令和7年8月21日付け 新潟地方気象台）

予報期間 8月23日～9月22日

[確率予報]

気 温	低い	10 %、	平年並	10 %、	高い	80 %
降 水 量	少ない	40 %、	平年並	30 %、	多い	30 %
日照時間	少ない	20 %、	平年並	30 %、	多い	50 %

[概要]

- ・ 天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。
- ・ 8月23日（土）～8月29日（金）
天気は数日の周期で変わりますが、高気圧に覆われやすいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。
- ・ 8月30日（土）～9月5日（金）
天気は数日の周期で変わりますが、高気圧に覆われやすいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。
- ・ 9月6日（土）～9月19日（金）
天気は数日の周期で変わりますが、高気圧に覆われやすいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

注 1) 発生量は平年比。
2) (+) は病害虫の発生に好適な要因、(-) は不適要因、

1 大豆の病害虫

葉焼病

発生時期	連続発生
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 現在の発生は並 (±) (2) 気温は高い (+) (3) 降水量はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 病原菌は風雨によって飛散する。発病が認められたら、直ちに防除を行う。

ハスモンヨトウ

発生時期	8月下旬以降
発生量	多
予報の根拠	(1) フェロモントラップ誘殺数は多 (+) (2) 気温は高い (+) (3) 降水量はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 若齢幼虫の防除を徹底する。

フタスジヒメハムシ

発生時期	連続発生
発生量	並
予報の根拠	(1) 現在の発生は少 (-) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 汚斑粒の発生要因となるため、子実肥大期の防除を徹底する。

カメムシ類

発生時期	連続発生
発生量	多
予報の根拠	(1) 現在の発生は多 (+) (2) 予察灯での誘殺数は多 (+) (3) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 子実肥大期の防除を徹底する。

ハダニ類

発生時期	連続発生
発生量	並
予報の根拠	(1) 現在の発生は少 (-) (2) 気温は高い (+) (3) 降水量はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 発生初期に防除を実施する。 (2) 薬剤抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

2 果樹の病害虫

ナシ黒斑病

発生時期	連続発生
発生量	並
予報の根拠	(1) 現在の発生はやや少 (－) (2) 気温は高い (+) (3) 降水量はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 耐性菌の出現を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

リンゴ斑点落葉病

発生時期	連続発生
発生量	並
予報の根拠	(1) 現在の発生はやや少 (－) (2) 気温は高い (+) (3) 降水量はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 予防防除を徹底する。

リンゴ褐斑病

発生時期	連続発生
発生量	やや少
予報の根拠	(1) 現在の発生はやや少 (－) (2) 気温は高い (－) (3) 降水量はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 予防防除を徹底する。

カキ炭疽病

発生時期	連続発生
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 現在の発生はやや多 (+) (2) 気温は高い (－) (3) 降水量はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 降雨前後の薬剤防除を徹底する。

果樹カメムシ類

発生時期	連続発生
発生量	多
予報の根拠	(1) 予察灯への誘殺数は多 (+) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 園内への侵入が確認され次第速やかに薬剤防除を行う。

ハダニ類

発生時期	連続発生
発生量	多
予報の根拠	(1) 現在の発生は多 (+) (2) 気温は高い (+) (3) 降水量はほぼ平年並 (±)

- | | |
|----------|---|
| 防除上の注意事項 | (1) 薬剤抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。
(2) 発生源となる下草を刈りとった後に防除する。 |
|----------|---|

3 野菜・花きの病害虫

軟腐病

- | | |
|----------|---|
| 発生時期 | 連続発生 |
| 発生量 | 多 |
| 予報の根拠 | (1) 現在の発生はやや多 (+)
(2) 気温は高い (+)
(3) 降水量はほぼ平年並 (±) |
| 防除上の注意事項 | (1) 傷口や害虫の食害痕から病原菌が侵入するので、害虫防除や強い風雨後の防除を徹底する。 |

ネギ黒斑病

- | | |
|----------|---|
| 発生時期 | 連続発生 |
| 発生量 | やや多 |
| 予報の根拠 | (1) 現在の発生は並 (±)
(2) 気温は高い (+)
(3) 降水量はほぼ平年並 (±) |
| 防除上の注意事項 | (1) 予防防除を徹底する。 |

ネギハモグリバエ

- | | |
|----------|---|
| 発生時期 | 連続発生 |
| 発生量 | やや多 |
| 予報の根拠 | (1) 現在の発生は並 (±)
(2) 気温は高い (+) |
| 防除上の注意事項 | (1) 発生初期の防除を徹底する。
(2) 薬剤抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤は連用しない。 |

トマトキバガ

- | | |
|----------|---|
| 発生時期 | 連続発生 |
| 発生量 | 多 |
| 予報の根拠 | (1) フェロモントラップ誘殺量は多 (+)
(2) 気温は高い (+) |
| 防除上の注意事項 | (1) 発生を認めたらすぐに防除を行う |

アザミウマ類

- | | |
|----------|------------------------------------|
| 発生時期 | 連続発生 |
| 発生量 | 多 |
| 予報の根拠 | (1) 現在の発生は多 (+)
(2) 気温は高い (+) |
| 防除上の注意事項 | (1) 薬剤抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。 |

アブラムシ類

発生時期	連続発生
発生量	並
予報の根拠	(1) 現在の発生は少 (－) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 薬剤抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

コナジラミ類

発生時期	連続発生
発生量	多
予報の根拠	(1) 現在の発生はやや多 (+) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 薬剤抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

ハスモンヨトウ

発生時期	連続発生
発生量	多
予報の根拠	(1) フェロモントラップ誘殺数は多 (+) (2) 気温は高い (+) (3) 降水量はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 若齢幼虫の防除を徹底する。

シロイチモジヨトウ

発生時期	連続発生
発生量	多
予報の根拠	(1) フェロモントラップ誘殺数は多 (+) (2) 気温は高い (+) (3) 降水量はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 若齢幼虫の防除を徹底する。 (2) 薬剤抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。 【病害虫発生予察注意報第4号（令和7年8月28日付）参照】

オオタバコガ

発生時期	連続発生
発生量	多
予報の根拠	(1) フェロモントラップ誘殺数は多 (+) (2) 気温は高い (+) (3) 降水量はほぼ平年並 (±)
防除上の注意事項	(1) 若齢幼虫の防除を徹底する。 (2) 薬剤抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

コナガ（アブラナ科：ダイコン、ブロッコリーなど）

発生時期	増加期は9月上旬以降
発生量	多
予報の根拠	(1) フェロモントラップ誘殺数は多 (+)

- 防除上の注意事項
- (2) 気温は高い (+)
 - (3) 降水量はほぼ平年並 (±)
 - (1) 薬剤抵抗性の獲得を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。